

第五次総合計画後期基本計画策定 第3回柏崎市総合計画審議会 議事概要

- 1 日 時 令和3年（2021年）7月16日（木） 午前9時30分から午前11時30分まで
- 2 場 所 柏崎市役所 多目的室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 樋口秀会長、三宮真美副会長、相田浩委員、近藤千鶴委員、山田秀貴委員、岡田和久委員、吉田匡慶委員、竹井みどり委員、三嶋崇史委員、霜田真紀子委員、大石友子委員
 - (2) 庁 内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、市民生活部参事、危機管理監、福祉保健部長、子ども未来部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、消防長、教育部長、議会事務局局長
 - (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、企画係長、同係員

4 会議資料

【事前配布】

- ・資料1_令和3（2021）年度進行管理報告書案
- ・資料2_第五次総合計画後期基本計画 骨子案
- ・資料2_補足資料
- ・資料3_地区別の将来人口

【当日配布】

- ・会議次第
- ・資料4_第3回柏崎市総合計画審議会 席次表
- ・資料5_第4回分科会概要報告
- ・資料6_第2回柏崎市総合計画審議会 議事概要
- ・参考_第5回・第6回分科会予定表

5 会議概要

- (1) 会長挨拶
- (2) 議事

「令和3（2021）年度第五次総合計画進行管理」と「第五次総合計画後期基本計画 骨子案」について、委員により以下のとおり審議が行われた。

発 言 者

発 言 概 要

【令和3（2021）年度第五次総合計画進行管理について】

※資料1「令和3（2021）年度進行管理報告書案」の全般について、事務局が説明し、分科会で審議を行った各章の進行管理については、資料5「第4回分科会概要報告」を中心に、各分科会長から報告を受けた。

会 長 : 最初に、各審議会委員に意見を聞きたい。

委 員 : 健康・福祉について。就業人口の産業別の推移では、農業や漁業の就業者数が減少しており、若い人の担い手を増やしたいところである。若い人の転入により出産が増えれば病院の分娩機能が維持できていると思っている。現時点で私どもの病院では年間約400人の分娩があり、これが減少していくと医療の集約化が目前に迫っている。まずは2024年に働き方改革が厳格化されると、地域の分娩が少ない

と取りやめるよう県から指令が出てしまう。そうならないよう若い人が増え、定着していけるような環境があると良い。

高齢者関係では、コロナの関係でコミュニケーションやスキンシップがとれない状況にあり、また、退院後のリハビリも含め疾病予防が大事だ。これに対しては柏崎市で昔から進められているコツコツ貯筋体操のようなトレーニングが良いが、病院と行政が連携して、こうしたトレーニングを進めるのが良いと思う。

委員：3点ある。1点目は、産業・雇用について。地元購買率が低下し、コロナ禍もあってネット通販が活発化している。一方で、リアルな買い物をしたいという需要もあると聞いているため、こうした店舗の誘致を進める事業を計画することが必要だ。

2点目は、教育・スポーツについて。スポーツを市内で促進している女性に話を聞いたが、子ども教室にしてもスポーツ教室にしても、男の子が多く、女の子のスポーツ人口がまだ少ないとのことであった。女の子のスポーツ人口を増やし、かつ継続できるような取組を盛り込んでいただきたい。

3点目は、自治経営について。DVの法律的な部分になると我々専門家に迅速につないでもらうことが必要であり、このつなぎの部分のスムーズ化が望まれる。

委員：金融・経済が専門であるため、一丁目一番地となるとやはり人口減少の問題につきるのかと思っている。人口減少の解消には特効薬がない中、大学生に柏崎の企業のことを知ってもらう施策のアイデアとして、学生が取材する立場となり、インターン活動を通じて、企業のことをSNSやYouTubeで発信してはどうか。紹介動画を作ることによって、柏崎の企業のことをもっとよく見えてきて、非常に優秀な技術を持つ企業が存在することの気付きになる。企業側から発信するのではなく、学生が中に飛び込んで、学生自身が発見し、発信していくようなことに取り組んだらどうか。そうすると市内就職が増え、職場結婚も増え、人口減少の抑制に貢献するのではないかと思う。

魅力・文化について。米山プリンセスのブランディングの方向性について相談があった。発信するだけでなく、ものを出していくとお米の状態で行くため、お米と値段しか柏崎市に入っていない。しかし、米山プリンセスを食べに来ようという感覚だと、柏崎市でお米が加工されることで、他の商品や他の人たちとサプライチェーンができあがり、それによって経済循環ができるのではないかと。ブランディングでは、「いまだけ・ここだけ・あなただけ」という「3だけ」と言われるが、これを進めると、最終的に柏崎市の魅力、ブランドができる。柏崎市とは何なのかというイメージができあがると、解決するための行動がしやすくなるように思う。

委員：学生が取材するのは面白い。

委員：各分野の話を聞いて、「教育」を付けると一つにまとまると改めて思った。縦割りと言われてるが、この審議会でも横の繋がりができて良いと思う。学校における最近の教育には、防災教育、進路教育、健康の教育、柏崎の魅力の教育、地域の教育、専門的で少ないかも知れないが自治経営の教育などがある。今の子どもたちが大人になると、これらの教育がどこかに記憶されていて、十年後二十年後良い形で出てくればと思う。一方、今の大人に関しては、これらの教育を受けていない世代が多いため、子どもたちに感心させられることが多々ある。このため、親の世代も理解していくと、いろいろ世代が成長していくのではないかと。

大学に関して、新潟工科大学のCMが新しくなり、県外からの志願が増えてきている。学生に関する地元での就職率や定着率のデータに、市内の高校生が市内に残って欲しいという力もあれば、市外や県外に就職した子に戻ってきて欲しいという施策も取り上げながら、柏崎の魅力を作り続けていくと人口が増えていくのではないかと考えると、この審議会がとても重要な分岐点になるような気がするため、もっと熱い議論が必要であると思う。

会長：燕市では、全国に先駆けて、市外で学んでいる大学生に燕の産品を送ったところ、感動し地元愛を感じたとのことだった。柏崎市でも戻ってきてもらえるような仕掛けが必要だ。

次に、各分科会長から意見を頂きたい。

委員：教育・スポーツについて。コロナ禍にあってエッセンシャルワーカー、産業を支える方々は、昔から3Kのイメージがある。これに従事する人たちは市外からは求めづらく、地域から輩出していく必要がある。誰かがその仕事を担って行かなければならないということについて、小学校から意識させていくような教育に取り組んでもらいたい。

委員：産業・雇用について。一次産業の減少は若手の進出が少ないというところに要因があるという点については、分科会でも議論になったところである。行政支援で若い人が少しずつ入ってきてはいるが、一方で一次産業は、小さい企業や個人事業主が非常に多いため、若い人への教育ができない。このようなことが離職の原因の一つになっている。よって、ただ単に人を迎えるということではなく、迎えた人を教育していく仕組みが必要だという意見が出た。また、先ほどの委員の意見で、リアル店舗の需要があり、その誘致が必要ということだったが、分科会では、まずその前段階として、買い回り品が新潟や長岡などに取られていた流れが変化しつつあるという動きを認識すべきだという意見があった。こうしたことも踏まえ、柏崎としてどのような企業の誘致に走るのか、地元で新たな商品をつくるのかといったことを進めていく必要があると思う。また、学生による企業紹介という委員の意見については、分科会で、高校生や市内大学生に地元企業の説明をする機会を作ってはいるが、コロナ禍で集まって聞くということができない中で、オンラインを活用して進めるのが良いのではないかという意見があった。まずは地元企業に紹介動画を作ってもらい、学生がいつでも見られる環境を少しずつ作っていくことが大事だと思う。また、市外から若い人を戻すという副会長の意見には、企業という立場からは、市内にとどまってもらわないと労働力という点から、これから非常に苦しくなるため、地道ではあるが、学生に地元の企業を知ってもらう取組を一つ一つやっていくことになるのかなと思っている。

委員：分科会を通じて、障がい者、子育て世代、生活困窮者に対して非常に細やかな行政サービスが実施されていることが分かった。柏崎市はこうした制度が充実しているため、我々が人口減少にどう関わりが持てるかといった場合に、このような良い制度をもっとPRできれば、例えば、転入者が単身赴任ではなく、家族も一緒に来れば多少は人口が増えるのではないか。一方で、こうした制度から漏れるのは高校生で、療養中の学習機会は、小中学生にはあるが高校生にはない。県立のため、市でどこまでできるかは分からないが、高校生の学びの場について手助けして欲しいと思う。

また、リタイア(退職)された人はとても元気であるため、コツコツ貯筋体操では

少し不足という声がある。そういった人のための運動を、医療機関や専門のトレーナーと連携して考えて欲しい。

委員：子ども達が、将来、柏崎を担っていけるような流れを作ることが重要だ。働き方改革が進みつつあり、いろいろ改善されてきてはいるが、先生方は多忙でやるべき事が非常に多い。食育、家庭、IT化などもあり、ある程度負担軽減を進めるには親の力も必要かと思う。

人口減少が最も気になる。第二、第三の人生を田舎で暮らしたいという人はたくさんいると思われる。こうした人に手を差し伸べて、空き家のリノベーションによる支援があっても良いのではないか。

また、資料1の28ページ、「生物多様性の保全に対する意識啓発」において、イノシシを年間440頭捕獲したと示されているが、この他にハクビシンの被害が増えており、糸魚川や上越ではアライグマが増えてきていると聞く。近々柏崎にも来ると思われるため、早めの対策が必要だ。

委員：人口減少の歯止めの観点と柏崎の産業の維持の観点から、働き手を求めている人と働き口を求めている人のマッチングを、市で進めてもらいたいと考えている。法的に行政が職業斡旋はできないと回答を得ているが、民間の力を借りながら進めて欲しい。例えば、兵庫県ではコロナ禍で職を失った人と働き手を求めている企業のマッチングをしているという新聞報道があった。こうした事例を踏まえ、検討していただけるとありがたい。私が属する分科会では、移住・定住がテーマの一つであるが、柏崎がきれいだというだけでは実績につながらない。生きていくための働き口を確保することが重要だ。コロナ禍で仕事量が減少した業種と非常に忙しい業種の乖離があり、人を求めている市内企業は多くあるだろう。この辺りのミスマッチの解消を、市の施策で進めることができれば、人口減少の歯止めの一つになるのではないか。自身が会社の求人をする中で、全てのエージェントではないが、柏崎に営業に来て費用対効果がない地域であるため、あまり営業に力を入れないと聞く。企業が求人をして、なかなかマッチングしてもらえない不利な地域であるとも感じている。こうした点を踏まえて、より直接的な方法を市でも考えてほしいと強く願っている。

委員：DVに関しては専門家に迅速につないでもらうことが必要で、このつなぎの部分のスムーズ化が望まれるという委員の意見について賛同し、ぜひ進めて欲しいと思う。

また、学生による企業の動画作成の話があったが、新潟産業大学では、地域理解セミナーの中で、柏崎の魅力を伝える動画を作ろうという取組を進めている。どちらかというと自然や文化が中心ではあるが、企業の動画も作って行けたらと思う。

Iターン・Uターンについて、学生の話を知ると、一度は外に出てみたいがいざずれば戻りたいとのことなので、いつでも戻れるような環境づくりが重要である。兵庫県ではワークシェアリングを進めており、また、いろいろな人材に来てもらうために、東京で募集活動を行い、応募は兵庫県出身の人だけでなく、東京生まれ東京育ちの人であったりする。このような形は行政だけではなく、民間企業でも作れるのではないかと思う。

～「第五次総合計画後期基本計画 骨子案」以降については省略～